

男女平等に関する市民ワークショップ等実施概要

■市民ワークショップ

1 目的

来年度「第5次男女平等参画推進計画」を策定するにあたり、一人ひとりが「自分らしく」生きることができるまちづくりのために、市民からジェンダー平等に関する現状や課題、その課題解決のためのアイデアをうかがい、計画策定の基礎資料とするために実施しました。

2 実施対象、日時

- (1) 参加者：18歳以上の西東京市民 15名
- (2) 募集方法：WEBもしくは電話での申し込み
- (3) 調査日：令和5（2023）年1月21日（土）13:00～15:00

3 テーマ

- 1. 女性の活躍を推進するには
- 2. ワークライフバランスを進めるには
- 3. ジェンダー平等社会を実現するには
- 4. 多様な性を認める社会に向かうには

4 実施方法

全体で2時間程度、4グループに分かれ、それぞれのテーマについてグループワークを行い、テーマに対する実施策の上位3項目を発表してもらいました。

項目	内容	時間
開会・紹介	開会の挨拶、事務局紹介	5分
ワークショップの説明	市民ワークショップの目的、進め方、スケジュールの説明	2分
ジェンダー平等に関する現状	ジェンダー平等に関する現状の説明 (世界の動向、国、都、市の現状をデータを用いて説明)	20分
ワークショップの進め方	グループワークの進め方の詳細説明、ミニ演習	15分
グループワーク	①「意識の変革」、「組織の変革」、「その他」について具体的な推進策をカードに記入	40分
	②分類ごとにグループのカードを集約	
	③各自で良いと思ったカードに点数を入れ、グループ全体での上位3項目を決定	
	各チームで発表シート作成、意見とりまとめ	15分
	各チーム発表（1チーム3分）	15分
全体まとめ	ワークショップの総括	2分
閉会	閉会の挨拶、事務連絡	3分

項目	内容	時間
アンケート記入	参加者アンケート記入。終わった方から退室。	終了後

5 主な意見

1. 女性の活躍を推進するには
<ul style="list-style-type: none"> 1. 国・自治体が本気になるべき 2. 教育内容の見直し
2. ワーク・ライフ・バランスを進めるには
<ul style="list-style-type: none"> 1. 学校教育の改訂。 2. 時間にゆとりをもつ。 3. 相談できる人を見つける。
3. ジェンダー平等社会を実現するには
<ul style="list-style-type: none"> 1. 既成概念を捨てる。 2. 現在の大人の意識を変えるための教育のすすめ。 3. 「～しかない」を「～もある」に言い換え、考え方を変える。
4. 多様な性を認める社会に向かうには
<ul style="list-style-type: none"> 1. 教員・職員に性多様性に関する講習会を開催する。 2. 公共施設（トイレ・更衣室）を設置する際、配慮した設計をする。 3. （選挙など）名簿の記載方法に配慮する（男性・女性等分けない）

■事業者インタビュー

1 目的

来年度「第5次男女平等参画推進計画」を策定するにあたり、市内事業所のワーク・ライフ・バランスの推進状況や女性活躍に関する取組をうかがうために事業者インタビューを実施しました。

2 実施対象、日時

- (1) 調査地域：西東京市全域
- (2) 調査対象：市内事業所 2社
- (3) 調査方法：各事業所にヒアリングを実施
- (4) 調査日：令和5（2023）年1月12日（木）、2月9日（木）

3 インタビュー項目

1. 職場環境の改善、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた取組
2. ワーク・ライフ・バランスの推進や女性活躍推進の取組を実施したことによる職場の変化
3. 女性活躍推進に関する取組を進める上で苦労したことや工夫、導入の障害
4. 女性も男性も誰もが活躍できる職場環境づくりを進めるために大切なこと

4 主なご意見

1. 職場環境の改善、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた取組
<ul style="list-style-type: none">・従業員のニーズに応え、フレックスタイム制度やテレワークの対象者を育児期以外にも広げ、より使いやすくした。・管理職登用を見据えた女性営業職の積極的採用を進めている。・上層部（理事長、人事部長等）が女性活躍の推進に意欲的であり、様々な取組が進められてきた。
2. ワーク・ライフ・バランスの推進や女性活躍推進の取組を実施したことによる職場の変化
<ul style="list-style-type: none">・現場の声を吸収する業務改革制度により短期休暇制度や業務簡略化が実現・短時間勤務制度利用者へのフレックス勤務拡大は好評を得た。
3. 女性活躍推進に関する取組を進める上で苦労したことや工夫、導入の障害
<ul style="list-style-type: none">・制度を浸透させていく上で、昔ながらの風習を壊すことは難しい。・産休、育休復帰後のフォロー体制が見通せず、女性のロールモデルも身近にいないことが不安。
4. 女性も男性も誰もが活躍できる職場環境づくりを進めるために大切なこと
<ul style="list-style-type: none">・LGBTQやDXに関する情報が不足しているため是非周知や情報提供をしてほしい。・交流会等で色々な人から話を聞きたい。リアルな話を聞くことができるので、自身のためになる。

■中学生インタビュー

1 目的

来年度「第5次男女平等参画推進計画」を策定するにあたり、市内中学校に通う生徒に対して、ジェンダー平等に関する具体的なエピソードや意見をうかがうために中学生インタビューを実施しました。

2 実施対象、日時

- (1) 調査地域：西東京市全域
- (2) 調査対象：市立中学校の生徒 4校（18名）
- (3) 調査方法：中学生にインタビューを実施
- (4) 調査日：令和4（2022）年12月14日、12月19日、12月20日、12月22日
令和5（2023）年1月19日

3 インタビュー項目

1. 家庭における役割分担の実態と理想
2. 家庭や学校における男女平等についての意識
3. 「男らしく」「女らしく」という考え方について
4. LGBT（性的マイノリティ）について
5. 将来の自分の働き方、ワーク・ライフ・バランスに関する意識
6. ジェンダー平等を考えるきっかけについて

4 主なご意見

1. 家庭における役割分担の実態と理想
【実態】・母が家事のほとんどを担い、父は休日や時間のある時に家事をしている。 ・特に役割は決めず、できる人が家事をしている。 【理想】・家事、子育ては男女両方で担うべきだが、男性は仕事、女性は子育てというイメージがある。
2. 家庭や学校における男女平等についての意識
・女性でもズボンやスカート等、制服を自由に選べるので平等だと感じる。 ・レディーファーストという言葉があるという時点で、元々男性が優遇されている社会であるということではないかと思う。
3. 「男らしく」「女らしく」という考え方について
・親戚の集まりで長時間座ることが辛くなり、あぐらをかこうとしたら「女の子なんだからあぐらはやめなさい」と言われた。 ・重い荷物を持ってないと男らしくないと言われた。男らしくないと言われると、少し気にしてしまうことがある。

4. LGBT（性的マイノリティ）について

- ・ LGBTという言葉は知らないが、世の中には心と体の思いが一致しない人や、同性が好きな人がいることは知っている。
- ・ LGBTの困りごとを解決するために、親世代がLGBTについて知る必要がある。

5. 将来の自分の働き方、ワーク・ライフ・バランスに関する意識

- ・ 自分と父と母の生活費を稼げるくらいには働きたいが、仕事ばかりではなく家事等もやれる余裕のある働き方がよい。
- ・ 子どもを産んだ後に復職したいと考えているので、資格を取りたい。資格があれば、復職にも有利だと感じている。

6. ジェンダー平等を考えるきっかけについて

- ・ 当事者以外の話を聞いても、関心が薄いと思うので、LGBT当事者の話を聞く機会があると良い。身近な話として捉えやすいと思う。
- ・ きっかけがないと、自ら関心を持って調べることはないと感じる。授業やHR等を使って学ぶきっかけがあると良い。